休眠預金活用事業

審査委員会の設置
運営事例紹介

～継続審査会の意義と有用性～

公益財団法人
パブリックリソース財団

パブリックリソース財団とは

➢2000年 NPO法人パブリックリソースセンターとして設立

～市民社会を創造するためのしくみづくり～

・寄付文化創造、ファンドレイズ支援、企業の社会性評価　など

➢2013年 公益財団法人として再スタート

～意志ある寄付で社会を変える～

・寄付文化創造 ⇒ オリジナル基金として現在約36基金を運営（※それぞれに審査会設置）

・企業の社会貢献活動の支援　・調査研究、情報発信、政策提言に関する事業

➢2019年 休眠預金活用事業の資金分配団体

制度開始初年度から資金分配団体に採択され、2022年現在5事業を実施中

※これまで6事業が採択され、うちコロナ枠1事業は終了（※それぞれに審査会設置）

PRFの助成審査委員会

➢審査委員会の役割（審査委員会規定より）

①助成対象団体の審査・選定を行い、その結果を代表理事に答申する。

②事業の基本的な方針、運営、内容、諸事項、その他に関する諮問を受けた場合はこれを検討し、その結果を報告する。**⇒その他の役割に厳密な制限はない。様々な活用の可能性がある。**

➢審査委員会の構成

・審査委員3～5名（うち審査委員長1名）で、事務局を置く。

・議長は審査委員長であり、審議部分の進行をお願いする。審議終了後に総評もいただく。

➢審査委員会の種類

・単一の審査会で複数の審査を行う場合と、プロジェクトごとに審査会を設置する場合

・初年度の審査会と**継続審査会**の実施

継続審査会の紹介

➢継続審査会の目的

①プロジェクトの進捗状況の確認

②実行団体としての適格性と事業継続の妥当性の確認

③事業をとりまく環境や制度上の問題点の確認、現場の声の広い上げ、意見交換

⇒助成プログラムの改善やアドボカシーに繋げていくために必要なプロセス

➢審査委員との協働関係

・審査委員とのコミュニケーションや役割分担が難しい。審査委員の出番が最初しかない。

⇒ぜひ継続審査会を取り入れてみてはいかがでしょうか？

★実行団体が事業として成果を出すだけでなく、その先の制度改革と社会変革を見据える。

★そのために何が必要か、3年間の事業の経過を見ながら、<u>実行団体と資金分配団体と審査委員会が一緒に考え、協働関係を築いていく。</u>

審査会との協働事例①

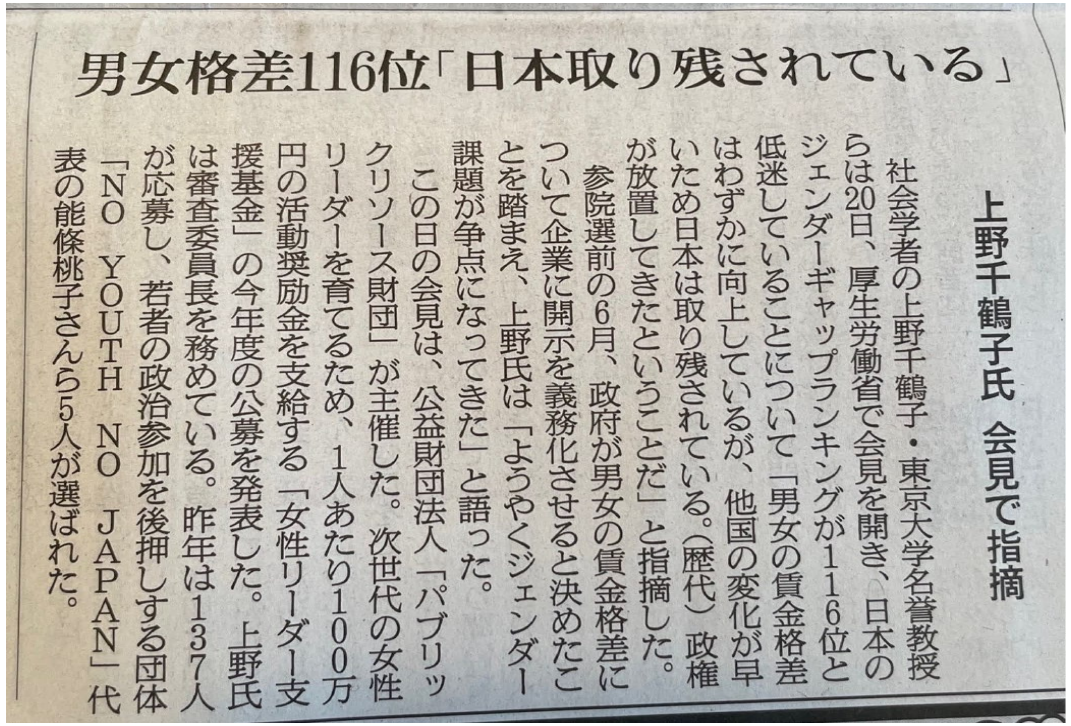
➢女性リーダー支援基金

・審査委員が前面に立って政策提言や社会変革を訴えるケース

⇒審査委員と助成先（受賞者）が一緒に記者会見を開き、女性の社会的地位向上等を提言

（審査委員の上野千鶴子氏、浜田敬子氏のほか、多くのアンバサダーが関わっている）

2022年7月21日朝日新聞記事



男女格差116位「日本取り残されている」

上野千鶴子氏 会見で指摘

社会学者の上野千鶴子・東京大学名誉教授らは20日、厚生労働省で会見を開き、日本のジェンダーギャップランキングが116位と低迷していることについて「男女の賃金格差はわずかに向上しているが、他国の変化が早いため日本は取り残されている。（歴代）政権が放置してきたということだ」と指摘した。

参院選前の6月、政府が男女の賃金格差について企業に開示を義務化させると決めたことを踏まえ、上野氏は「ようやくジェンダー課題が争点になってきた」と語った。

この日の会見は、公益財団法人「パブリックリソース財団」が主催した。次世代の女性リーダーを育てるため、1人あたり100万円の活動奨励金を支給する「女性リーダー支援基金」の今年度の公募を発表した。上野氏は審査委員長を務めている。昨年は137人が応募し、若者の政治参加を後押しする団体「NO YOUTH NO JAPAN」代表の能條桃子さんら5人が選ばれた。

朝日新聞デジタル ＞ 上野千鶴子氏、男女格差で日本116位は「政権が放置した… ＞ 写真・図版

記者会見する社会学者の上野千鶴子氏（右）と「NO YOUTH NO JAPAN」代表理事の能條桃子さん（中央）＝2022年7月20日午後3時58分、厚生労働省、三輪さち子撮影

審査会との協働事例②

➢休眠預金 支援付き住宅・人材育成事業

・審査委員は前面に出ず、実行団体が行うアドボカシーにアドバイスや認証を与えるケース

＜実行団体の背景と審査委員との関係性＞

・実行団体は長年実績のある団体で、政策提言をする基盤を持っているが発言力・影響力に乏しい。

・審査委員は当分野の研究者やSBの専門家で、事業の実証効果や課題の分析に優れている。

⇒政策提言を行う実行団体をエンパワメントし、アドボカシーの効果を高めるような協働関係。

★審査委員と実行団体の協働関係の在り方は、それぞれの事業によって異なる。

★資金分配団体は事業の目的や状況に合わせて、両者をコーディネートする存在。

★実行団体も資金分配団体も審査委員も、持っている課題感は一緒で、向かう方向は同じ。

単に助成先を選ぶだけの審査会ではなく、社会課題の解決を目指すパートナーへ。